春まつりシーズンスタート

水沢区

羽田町火防祭が２年ぶりに開催

大勢の見物客を魅了した鋳物屋台

市内春祭りのトップを飾る羽田町火防祭（同実行委員会主催）が３月25日、羽田町本町通りを会場に開催されました。昭和初期の大火を契機に始まった同祭り。昨年は東日本大震災により中止となったため、ことしは２年ぶりの開催。この日は、時折雪が降る肌寒い一日となりましたが、詰め掛けた大勢の来場者は祭りを満喫していました。

午前８時の花火の打ち上げから始まった同祭りは、鋳物太鼓の演奏や消防団によるまとい振り、「羽田ふるさと音頭」パレードなどのイベントを開催。33歳厄年連「飛猿会（とびざるかい）」が引く鋳物屋台では、屋台に乗った愛らしい子どもたちが見物客を魅了していました。

ブラスの響きに耳をすまし

前沢区

ブラスアンサンブルフェスティバル

前沢ふれあいセンターが主催する全日本ブラスアンサンブルフェスティバルが３月10日と11日、同センターで開催され、金管楽器の美しい音色がホールいっぱいに響きわたりました。

10日には、東日本大震災で建物被害が集中した五十人町で街角コンサートを実施。震災から１年を迎えた住民の心を慰めました。11日の追悼式典では、観客も一体となり「ふるさと」を斉唱。金管楽器の重厚な音色に、客席からは大きな拍手が送られていました。

会場も一体となり「ふるさと」を斉唱

おもてなしの心で観光客を

衣川区

観光プラン発表会

衣川区のＮＰＯ法人天遊塾（高橋厚理事長）は３月23日、水沢区内のホテルで「岩手発！旅づくり塾観光プラン発表会」を開催しました。

同法人では、観光業者と共にワークショップを開催し、地域の観光資源の有効活用策を検討してきました。当日は、平泉の文化遺産登録を契機に、新たな観光客の誘致を目指した市内を含む県南地域を周遊する観光プランを発表。今後は、沿岸被災地の復興支援ツアーなど、観光プランの充実を図る予定です。

参加者を前に説明を行う天遊塾会員

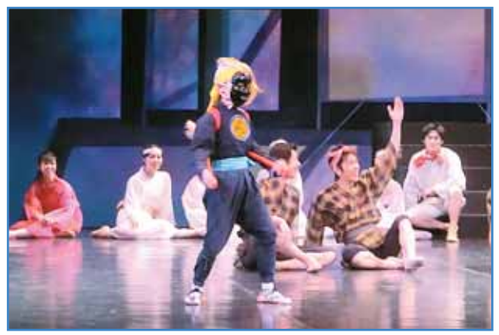
洋と和の協演で観客を魅了

江刺区

原体剣舞がバレエ公演に特別出演

原体剣舞保存会（及川忠之会長）の子どもたち４人が３月17日と18日、新宿文化センターで行われた東京小牧バレエ団の公演に特別出演しました。

出演した演目は、後藤寿庵の一生から創作された隠れ切支丹（きりしたん）の物語「マダレナ」。劇中で、三人狂（さんにんぐる）いを披露すると会場から「ブラボー」の声が飛び交い、カーテンコールでは大きな拍手に包まれました。舞台に立った菊地愛梨（あいり）さん（田原小５年）は「大きな舞台で堂々と踊ることができて気持ちよかった」と話していました。



バレエダンサーの前で堂々と演舞を披露する原体剣舞保存会

瞳を輝かせ初の演奏発表会

胆沢区

奥州ジュニアオーケストラスクール

奥州ジュニアオーケストラスクールの演奏発表会が３月18日、胆沢文化創造センターで行われました。

市内の小中学生ら22人は、バイオリンとチェロの２コースに別れて昨年10月から練習を始め、講師が驚くほどの熱心さで６曲を習得。子どもたちが指先に神経を集中して奏でると、弦楽器の厚みのある音色が観客を魅了しました。最後に「マル・マル・モリ・モリ！」を元気良く演奏すると、子どもたちは達成感あふれる笑顔で「良くできました」と歓声をあげました。

気持ちを込めて演奏する子どもたち

芸術と酒蔵の魅力たっぷり

水沢区

酒蔵で女子美術大学卒業制作展

神奈川県相模原市の女子美術大学の卒業生６人が、３月18日から20日にかけて、立町の元酒蔵を会場に卒業制作展「岩手の大きな酒蔵で、」を開催しました。

同展は、水沢区出身の千田智子（ともこ）さん（27）の「地元で歴史的に価値のある『蔵』で卒業制作展を」という思いをきっかけに開催。会場には、千田さんの制作による「爆発」と題した抽象画をはじめとして、絵画や映像などの作品を一人１点ずつ展示。来場者は作品の前にたたずみ、熱心に見入っていました。

千田さんの作品を熱心に見入る来場者

皆で熱演夢のミュージカル

胆沢区

子ども舞台創作体験事業

県内の児童生徒らが参加する「みんなでつくる夢のミュージカル『ピーター・パン』」が３月25日、胆沢文化創造センターで行われました。

同公演は、ＮＰＯ法人胆沢文化館自主事業協会が主催したもの。いさわジュニアミュージカルスクール生や同スクールを指導する劇団ゆう、県北、沿岸市町村の児童生徒らが出演しました。本市の子どもたちは、インディアン役などで出演し、息の合った躍動感あふれるダンスで会場の約700人の観客を魅了しました。

約100人によるインディアン・ダンス